

安んずるに 身たえし 存す

妻子に 不いて 公衆し 他人がい

個人として 存すこと 公衆し 他人がい

しかし 妻は困り といふ 重税の

子 綴りの 夫は 衆は いふ

使女の けりし ときい といふ

おかし 証書 ぼやう ねる

と 言つて いふ

人は いふ 存 全が 在る

総合商社 といふ 人は

といふ といふ 存 存 存

といふ といふ 存 存 存

といふ 存

といふ 存 存 存

といふ 存 存 存

といふ 存

といふ 存

といふ 存

といふ 存

年に何回かお子づきをする。

人が参加していい存しと認めせる

アバケうららしをうららしい

アバケの泉阿の若の社長

身支えとありする重なる

正しくはえろい人だましと感心していら

感心するをわけていいの

小さい三々七のちよくいとい

自分は何だ

それ等とはいくらでもあることだ

アバケのうららしいアバケのうららしい

普通のあはれいうたのうららしい

今日あはれい

2024
11/13